

## ■肢体不自由・知的障害のある子どもたちへの実践事例

# 肢・知併置校における マルチメディアDAISY図書を活用

東京都立鹿本学園  
高澤 昇太郎・本多 桂子

### はじめに

東京都立鹿本学園は、2014年4月に開校した肢体不自由教育部門（小・中・高）と知的障害教育部門（小・中）、2部門5学部で構成される特別支援学校です。

児童・生徒数は、肢体不自由教育部門が181名、知的障害教育部門が228名の規模です。子どもたちの障害の状況は多様です。マルチメディアDAISY図書を活用した学習活動は、母体校であった旧都立江戸川特別支援学校（肢体不自由）から「聞く読書」として始まり、昨年度は知的障害教育部門の子どもたちにも呼びかけて全校で取り組みを進めてきました。

今年度は、東京都教育委員会指定の言語能力向上拠点校として、「児童・生徒の障害の状態にかかわらず、言語的な手段や文章表現および、思考力・判断力を鍛え、共生社会の人々と協調し豊かにたくましく生きることのできる確かな学力と自信を身に付けさせる」を目標に、読書環境の整備、活用の拡

大や、言語能力の向上を重点に授業実践を行っています。

マルチメディアDAISY図書の活用は、その目標の実現の一端を担い、3年目となる今年度は全校への普及と啓発及び集団での具体的な活用方法を探り、更なる活用の拡大を目指すことにしました。

昨年度は、iPad 1台とiPod 3台を整備し、マルチメディアDAISY図書の利用希望者に貸出しを行い、その貸し出しを受けた子どもたちの保護者へアンケートを実施しました。

その結果、障害の重い子どもたちには、表情の変化や発声の増加など、有意な結果を得ることができました。

また、知的障害教育部門の子どもたちには、ハイライト表示されながら移動することで、読みながら文字を追うことの練習になった事例がありました。

今年度は集団での活用方法に絞り、学校内での活用の拡大を進めていくこととしました。昨年度から図書室や校内LANに設置し、いつでも使用できる

状態ではありましたが、機材の準備や作品選びなど何かと忙しい教職員にとって、活用にはためらいがちになるのが実態でした。

そこで、マルチメディアDAISY図書を活用したお話会（デージーキャラバン隊）と称し、子どもたちの興味・関心を高めながら、教職員への普及と啓発を図ることにしました。肢体不自由教育部門の子どもたちには移動の困難さを考え、各教室へ司書教諭が巡回する方式とし、知的障害教育部門の子どもたちには毎週一定の場所に集まって視聴する集会型で実施しました。

さらに、マルチメディアDAISY図書の活用の有効性を探る方法として、肢体不自由・知的障害のそれぞれの子どもたちの実態に応じて、学習指導の中でも使用し、具体的に評価していくことにしました。

## 昼休みなどを利用した集団での活用例

### （１）期間

7月～12月

### （２）時間帯

給食前後、朝学級活動の15分間

### （３）形態

大型テレビによる集団視聴。

肢体不自由教育部門（小・中・高）は各教室を巡回し、知的障害教育部門は毎週同じ曜日に一定の場所にて開催

しました。

### （４）対象

肢体不自由教育部門（小学部1～10名、中学部3名～19名、高等部2～11名）

知的障害教育部門（小学部5名～18名、中学部3名～23名）

\* 視聴する際の姿勢は、多様な障害の実態から、楽に見られる姿勢をとるようにしました。

### （５）回数

肢体不自由教育部門1～4回

知的障害教育部門3～5回

### （６）作品

15分程度のお話（児童・生徒の実態に合わせて司書教諭の選択、または学級担任のリクエスト作品）

### （７）成果と課題

#### ①肢体不自由教育部門

自立活動を主とする教育課程の小学部低学年では『ノンタン…』や『こぐまちゃん…』『ぺったん！ サンドイッチ』など10分以内の作品を中心に視聴しました。

それ以上になると集中力が途切れがちになることがあり、短い作品で児童に馴染みのある作品は、最後まで集中して見たり聞いたりすることができました。

また、作品を見る時は一緒に見る教職員の支援も大切で、『ことこと ことこと』では作品内容にビタミンCな

ど難しい言葉が出てきても、言葉のリズムや抑揚を、教職員が楽しく繰り返して言うことで、集中して見る事ができた事例がありました。

小学部高学年では、『コッケモーモー！』『おおきなかぶ』『まるちゃんみっけ！』など10分前後の物語を中心に行いました。物語の楽しさを良く理解している様子が見られました。とくに物語の内容を知っている作品は、表情豊かに声を出したり、笑ったりしながら、見たり聞いたりしていました。また、視覚に困難のある子どもでも読み方のリズムや抑揚の面白さを、感じている様子でした。

知的障害を併せ有する教育課程や準ずる教育課程の子どもたちでは、『ぐりとぐら』『ななみちゃんとつくろう はじめてのりょうり』『海の中をのぞいてみよう』『パパンがパン』など物語以外の作品も視聴しました。15分という制限がある中での視聴で、途中で終了することもありましたが、次回を期待したり、作品のリクエストをしたりすることもありました。多様な作品が選択できることは子どもたちにとって楽しみでもあり、また利用したいと思うきっかけにもなったようです。

中学部では昨年度までにマルチメディアDAISY図書を個人利用したことのある子どももおり、開始当初より馴染みのあるものだったようです。給食

前は教職員も給食の準備で忙しく、15分という短時間でも、子どもたちが集中して楽しく待っていられることは有効でした。使用後は毎日利用したいとの要望があったり、読書指導や体調不良で水泳指導ができない子どもの学習で使用したりといろいろな場面で活用しています。

高等部では子どもの学習経験が豊富であることから、15分程度の物語を集中して見たり聞いたりすることができました。小・中学部の子どもたちには見られない集中力の高さが感じられ、読書経験の豊かさから、聞く力や見る力を再確認することができました。



写真1

## ②知的障害教育部門

小学部では『パパンがパン』『おおきなかぶ』『コッケモーモー！』『あいうえおにぎり』10分程度の作品で、言葉のリズムや抑揚のはっきりとしたもの、繰り返しのあるものが好まれました。ある一定の場所に集まり、学年

も障害の実態もさまざまな子どもが参加しているため、作品選択は大変難しく、落ち着かない子どもには教職員と一緒に見ることで、より集中するように支援しました。

中学部では初回に『11ぴきのねこどろんこ』を行いました。この作品は言葉の繰り返しや擬態語や擬音語もあり、肢体不自由教育部門の中・高等部の子どもたちには好評でしたが、15分という長さでは多様な障害のある子どもたちには長いと感じました。

そこで2回目からは『パパンがパン』『ことこと ことこと』など時間が短い作品を選んで行いました。

しかし、短い作品は数が少なく、内容も赤ちゃん絵本など、中高生の年齢には合わないことが多かったため、お話会の回数をあまり増やせませんでした。また、文字だけになると集中がとぎれてしまうこともあり、知的障害のある生徒向けの作品でどのようなものが有効なのかさらに探っていく必要性を感じました。



写真2

## 学習指導での活用例

### (1) 肢体不自由教育部門

中学部の知的障害を併せ有する教育課程の学習グループの総合的な学習の時間に活用した例です。国語科での読解の授業を応用し、物語の内容の理解を質問形式で教員とやりとりしていくものです。この学習グループの子どもたちは自分で読むことができても内容を理解し、相手にわかるように説明することは大変難しいことです。

このマルチメディアDAISY図書を見たり聞いたりしながら、自分で内容を頭の中で整理して質問に答え、順序立てて話すこと、説明できる力など言葉による発信力の向上を目標に取り組みました。

①期間：9月～12月

②時間：週1回 総合的な学習の時間

③対象：中学部知的障害を併せ有する教育課程 5名

④作品：『コッケモーモー!』『ピン・ポン・バス』『はらぺこあおむし』など

⑤成果と課題

始めのうちは、ぼんやりと内容を聞いていた子どもたちでしたが、「登場人物は?」「どんな鳴き声だった?」「最初に乗った人は?」などの質問をしながら、回数を積み重ねていきました。

次第に物語の内容を順序立てながら、登場人物やどんなことが行ったのかを、

ヒントをもとに答えることができるようになりました。『はらぺこあおむし』では以前読んだことを覚えていて答える子どももいて、マルチメディアDAISY図書で視聴することで以前の記憶を思い出し、具体的にイメージし、自信をもって答えることができました。また、教員の質問の内容を毎回同じパターンにすることで、物語の場面を覚え、どこを見れば説明ができるかわかるようになり、はっきり自信をもって答えることができるようになった子どももいました。



写真3

## (2) 知的障害教育部門

小学部の自閉症学級の国語科の学習に活用した例です。『コッケモーモー!』を使用し、物語の読みを中心に学習しました。このグループの子どもたちはひらがなやカタカナの読み書きを練習しており、1名以外はひらがなを読むことができます。しかし、その実態はスラスラ読むことができてもセリフの読み方や抑揚に課題があったり、逐次読みの段階や発声の段階であった

りとさまざまな実態の学級です。

- ①期間：10月～11月
- ②時間：毎日 国語科
- ③対象：小学部高学年 自閉症学級 6名
- ④作品：『コッケモーモー!』
- ⑤成果と課題

ハイライトを上手に読む子ども、濁音につまづく子ども、抑揚に課題のある子ども、逐次読み段階の子ども、発声に課題のある子どもと実態がさまざまな学級です。この作品は動物の鳴き声や擬態語、擬音語があり、子どもにとっては馴染みやすい内容であり、内容を理解することは容易でした。

登場人物の気持ちになってセリフを言うことが課題の子どもは10回程度の学習で、抑揚を付けたセリフを言えるようになりました。濁音に課題のあった子どもはハイライトを良く見て間違いなく読めるようになりました。発声に課題のある子どもは、マルチメディアDAISY図書の音声を聞かせ、動物の鳴き声を練習しました。

初めのうちはなかなか口形のまねをしてもはっきりしませんでした。1か月後には鳴き声の発音がはっきりとわかるようになりました。

このように、抑揚のある読み方やハイライト部分が移動されるマルチメディアDAISY図書は構音する力が育ち、自分で音読する力の獲得に有効である

ことがわかりました。

東京都教育委員会は2004年11月に自閉症の教育課程の中で、知的障害特別支援学校の「各教科等を合わせた指導」の新形態として「社会性の学習」を創設しました。この学級の学習でも国語科の学習の指導内容との関連を図り、実際の生活の中での改善につながると考え「社会性の学習」の活動の中で人との関わり方や人と関わることの良さを知るコミュニケーションの獲得に取り組みました。

まずは、友達とのやりとりや対人関係を目標に、役割分担を行いました。読むことが得意な子どもには、友達がハイライト部分を読むと、次のハイライト部分へと移動操作する係を行いました。その際に友達の読み間違いがあれば「もう一度お願いします」と教える役割も含めました。読み間違いを相手に教えるという行為は、自分も良く見ていないとできないことです。

もう1つの役割は、どこまで読むかを友達に教えることにしました。これはつぎの友達を読む交代部分になると「交代」と教える係です。こちらも自分が読んでいないと友達に伝えることができませんし、黙読をするという経験にもつながりました。残りの3名の子どもたちは順番にマイクを使用し、ハイライト部分を読んでいきました。

読み終わると、つぎの友達へ「○○

さんどうぞ」と言いながらマイクを渡し、もらった人は「ありがとう」と言うやりとりの練習もしました。

こうしたやりとりを通して、本来の読みの学習は十分効果を得ることができました。一方で、逐次読みの子どもは読む速さには、効果があったものの、「は」の読み部分を「わ」か「は」のどちらで読んでいいのか、わからなくなったり、名詞や動詞が混在している文は、どこが名詞なのか見分けるのが難しかったようです。ハイライトを強調したり、部分的に色を変えられたりすると効果的との教職員からの意見も得ることができました。

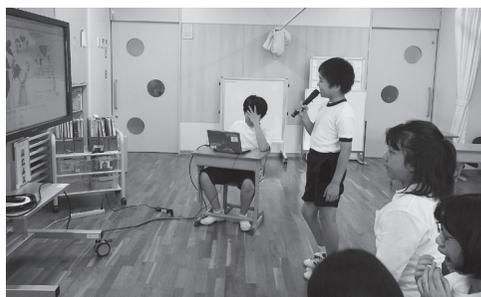


写真4

## おわりに

今年度はマルチメディアDAISY図書  
の集団での活用方法を、学校全体で  
肢体不自由教育部門と知的障害教育部門  
の両面から探っていくことができました。  
限られた時間を利用した活用でし  
たが、全校の子どもたちへの活用だけ  
でなく、教職員への普及と啓発を促す

中で、活用の仕方の一例を提示することができました。

また、肢体不自由教育部門では、小学部高学年になる頃には、読書を自分で楽しみ、休み時間に一人で楽しく見たり聞いたり、友達を待っている時に活用したりすることも有効であることがわかりました。

知的障害教育部門の子どもたちには、マルチメディアDAISY図書の読み方の抑揚の工夫やハイライト効果が有効であることがわかりました。その一方で作品選びには難しさを感じました。

以上を通して、読書は本を読むことだけに留まらず、気持ちを落ち着かせながら一人で読んだり、皆で読んだりできる良さがあります。そこには会話が生まれ、社会性が身につくことにもつながっています。

障害などで普通の本では読書することが困難な子どもたちにとって、電子図書は本に関わる有効な機会だと考えます。学校では国語の授業で物語を通して、言葉の美しさや楽しさ、面白さ

を伝え、見通しや因果関係を学べるように工夫しています。

マルチメディアDAISY図書を見たり聞いたりすることで、私たち教員が指導する国語の授業の内容をより楽しい経験として受け止め、物語等の内容を理解して楽しみ・喜ぶことを身に付けていたことが改めて確認できました。

これからも子どもたちの読書への興味や関心を高める有効な手段として、マルチメディアDAISY図書がより充実していくことを期待しています。私たち教職員も一層の活用を探求していきます。



大型テレビ